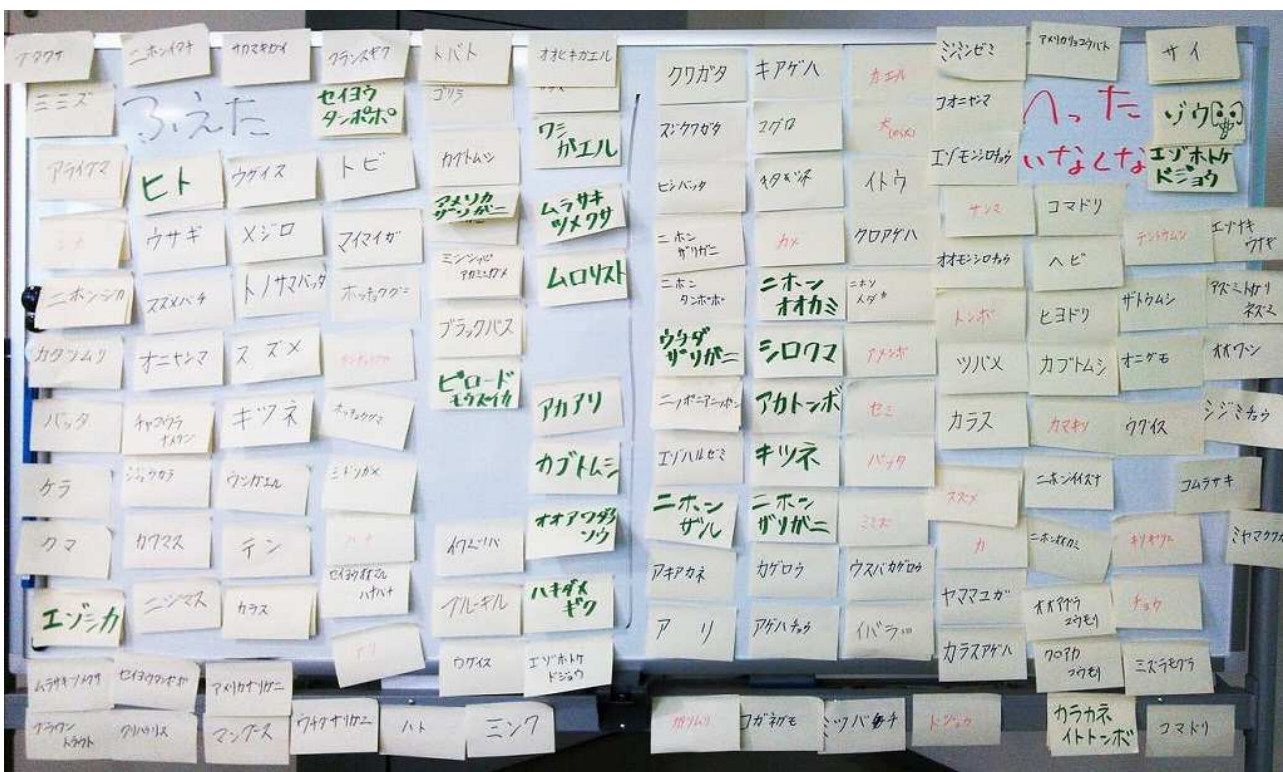


生物多様性市民実践ハンドブック子ども企画委員会レポート 第1回委員会を開催しました！

平成25年9月28日(土)、子ども企画委員メンバー10人がエルプラザに集合し、第1回委員会を行いました。

まずは、事前課題の「増えた生き物・減った生き物」について、考えたり、調べたりした生き物をそれぞれ書き出していました。出てきた生き物は約150種で、ホワイトボードはいっぱいになりました。

この結果は、第2回委員会で大学生サポーターさんからコメントをいただく予定ですので、楽しみに。



増えた生き物 ← | → 減った生き物

次に、大学生サポーターの山中さん、吉井さんから、「生物多様性ってなに？」というタイトルでレクチャーがありました。

「生物多様性」は、“地球上に様々な生物がいること、そしてそれらが互いにつながりをもっていること”を意味する言葉です。地球上にいる様々な生き物たちのつながりで、私たちの暮らしが支えられていること、その生き物たちのつながりが、今、私たち人間の影響で失われつつあることを学びました。



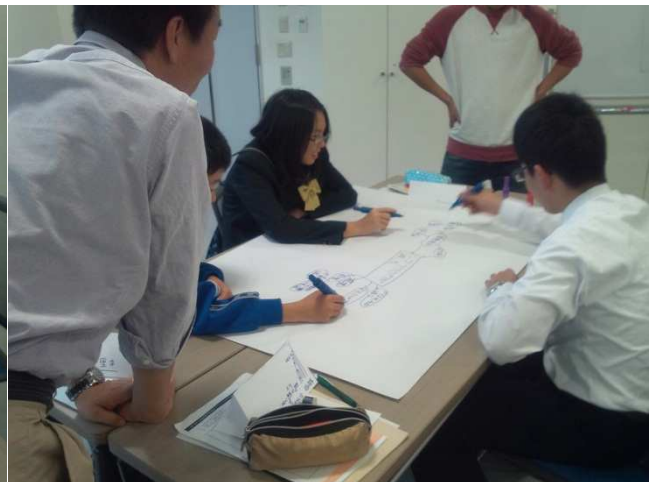
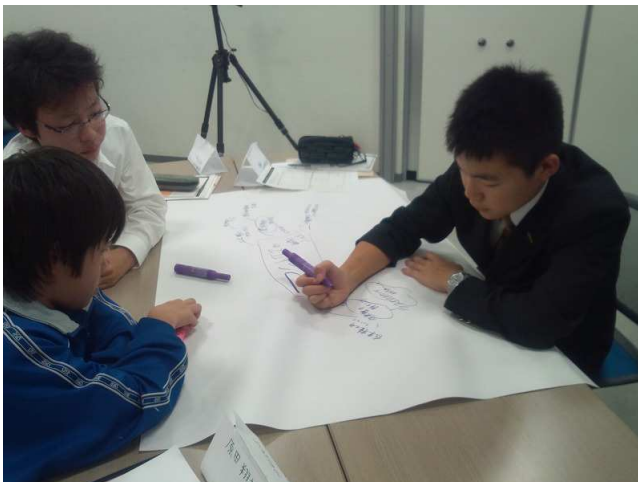
ここからは、いよいよグループワークの時間。

3つのグループに別れ、それぞれ「エゾシカが増えた」「アライグマが増えた」「シマフクロウが減った」のテーマで、“なぜそうなったのか”、“それによってどんなことが起こるか”を考え、模造紙に書き出していきました。

エゾシカは、近年増加による農林業の被害が問題となっています。また、アライグマはもともと日本にいない外来生物の代表で、シマフクロウは北海道を代表する希少な生き物です。

生き物たちの増えた・減った原因を考えていくと、いずれも私たち人間の影響が見えてきました。そして、生き物たちが増えた・減った結果、私たち人間の暮らしに悪い影響を与えていることもわかってきました。

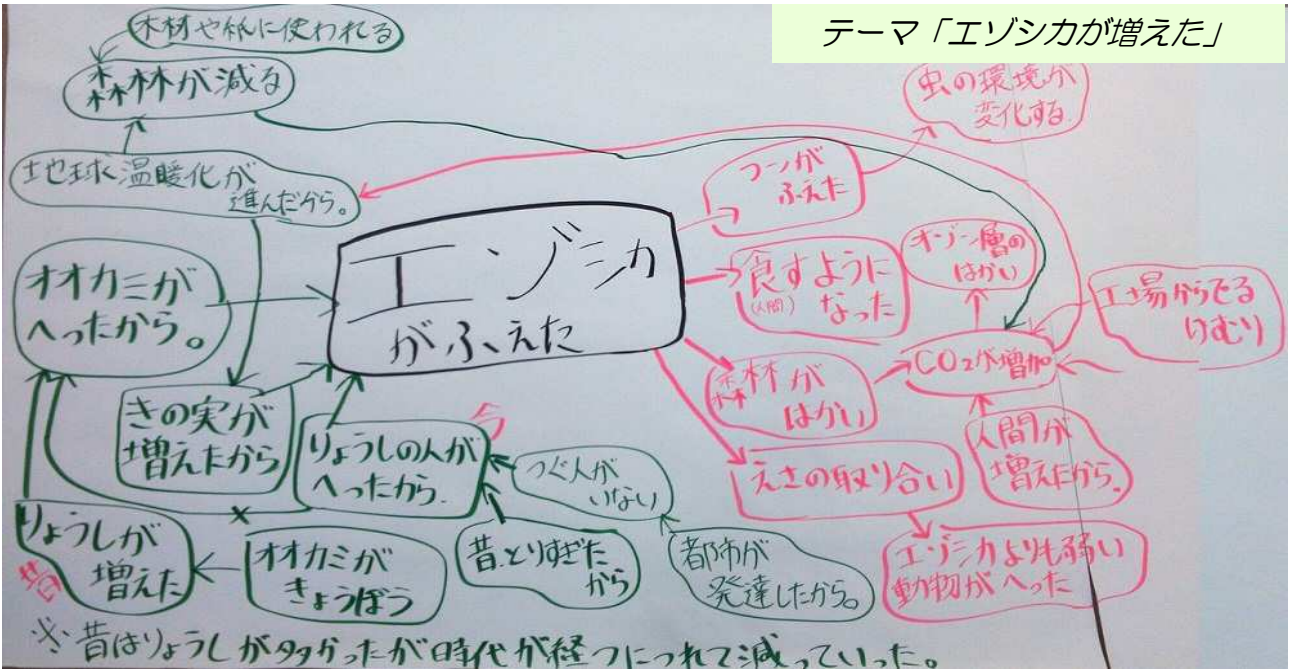
このグループワークを通じ、生き物と人間の暮らしのつながりを実感し、レクチャーで説明を受けた“人間が原因で「生物多様性」(生き物たちのつながり)が失われつつあること”を改めて考えさせられました。



《第1回委員会の振り返り》

- 生物多様性について、色々考えることができ面白かった。
- 最初は生物多様性のことはよくわからなかったが、イメージをつかむことができた。
- 今まで生物多様性という言葉が知らなかったが、人間が大きく影響を及ぼしていることがよく理解できた。
- このような機会が増えて、生物多様性のためにみんなで気を付けていけるといいと思う。
- 人口増加など人のおかげで環境が悪化したことでシマフクロウが減ったことがわかった。
- 生き物が増えた・減った原因が、意外と人間のせいだということがわかり驚いた。
- 人間が壊した環境が連鎖し、その影響が人間に帰ってくるということがよくわかった。
- サポーターの人などのおかげで、かなりわかりやすかったし、理解が広まった。
- いつもは同じ学校のメンバーの意見しか聞けないが、色々な人と交流できてよかった。
- 自分ではわからないことが色々あったが、他の人の意見を聞くことで、内容が深まり勉強になった。
- 最後の課題では、グループによって意見が違うことにびっくりしたが、面白かった。

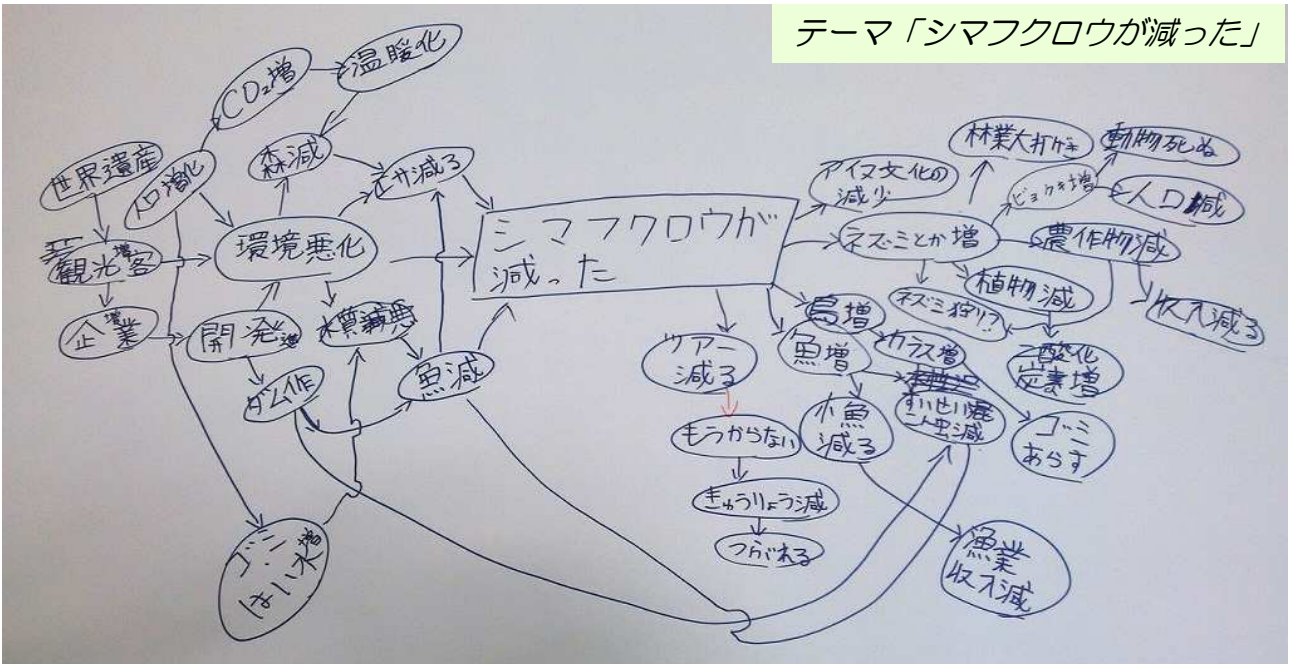
テーマ「エゾシカが増えた」



テーマ「アライグマが増えた」



テーマ「シマフクロウが減った」



第1回生物多様性市民実践ハンドブック子ども企画委員会 参加者

◎ 子ども企画委員

宮の森中学校：鈴木 智久さん・佐々木 亮太郎さん

屯田北中学校：加藤 正峰さん・仲谷 蒼祐さん・伊藤 綾里さん・星屋 沙弥佳さん

米 里中学校：原田 翔之助さん・分銅 将大さん・梅津 健広さん・寺内 健斗さん

◎ 大学生サポーター

山中 聡さん（北海道大学）

吉井 千晶さん（北海道大学）

【担当】札幌市環境局環境共生推進担当課

電話：211-2879 FAX：218-5108

URL：http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity